

インターバンクの声（2017年9月20日）

北朝鮮をめぐる緊張の高まりも、結局のところ北朝鮮も米国もお互いを攻撃することはないだろうとの見方が広がっているため、当初のような地政学リスクによる安全通貨の円買い反応も少なくなってきた。ただ昨夜、トランプ米大統領が国連総会で「米国に脅威を与えるなら北朝鮮を完全に破壊する」と発言した際には、さすがにドル円も111円21銭まで円買いが進んだ。それでも先週後半以降のドル買い・円売りの勢いが、米消費者物価指数が堅調だったことによる米長期金利の上昇に支えられていることもあり、トランプ大統領の発言後に米金利が再び上昇したことから、昨夜も111円21銭に下げた後は、111円83銭まで円が売り戻されている。さらに市場は、21日の日本時間未明に発表されるFOMC声明、参加者による政策金利見通し「ドットチャート」やイエレン議長の記者会見に注目しており、結果次第で対円でのドル続騰もあれば反落もあるだろう。ユーロや英ポンドの上昇が止まり始めているのを見ても、ほとんど興味薄だった今回のFOMCへの注目度が上がっているのが分かる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。